

国民民主党 埼玉県第4区総支部長
埼玉県総支部連合会 代表

あさの克彦

「政治家」が変われば「政治」は必ず良くなる
そう信じて朝霞・志木・和光・新座の皆さまと
全力で行動していきます。



あさの克彦

検索



日本が抱える「2025年の崖」という問題

「2025年問題」と「レガシーシステム」というものをご存じでしょうか。

2025年問題というのは、団塊の世代の方々が後期高齢者、75歳以上になるという課題です。

そしてレガシーシステムというものについてですが、レガシーというと「伝統的な」という様なプラスの意味で使われることが多い言葉ですが、ITの世界ではレガシーというのは古い慣習に従ったものというマイナスイメージで使われることが多いそうです。具体的には、行政や企業などの古い基幹システムが大きな問題を起こすことになるだろうと言われている課題です。

今の日本の状況で見ても、処理が必要なデータ量がどんどん毎日のように増えていっています。

こういったものに対応できなくなると、システム障害が起きてしまったり、あるいは時間的なロスが生まれてしまったりするという事です。

2025年の崖

レガシーシステムによる**経済損失** 現在の**3倍**

最大 **12兆円/年**

	現在	2025~2030年	
IT予算の内システムの維持管理費の割合	80%	90%以上	技術的負債
基幹系システムが21年以上稼働している企業	20%	60%	レガシー化
不足するIT人材	約17万人	約43万人	人材不足

参考：経済産業省「DXレポート～ITシステム「2025年の崖」克服とDXの本格的な展開～」

更には、システムが古くなると、扱える人材の確保が難しくなっていくという問題も出てきます。

具体例で言いますと、私が20年以上前にIT企業に勤めていたとき、事務系のプログラムの中心的なプログラミング言語として使われていた「COBOL」というものがありました。

これは1950年代に開発された言語ですが、この言語でシステムの基幹を作ると、色々な機能を後で追加していったとしても、大元がこの言語で作られていますのでCOBOLが扱える人が必要になります。

今でももちろんCOBOLはアップデートされているらしいのですが、今現在のITの主流の言語ではありません。

当然のことながら、処理速度にも限界があります。だからこそ本来であれば新しいものに変えていかなければいけないのに、最初に作った基幹システムにこだわり過ぎて、結局その大元のシステムから離れられなくなってしまいます。

古いシステムのままですと、処理速度が追い付かずシステム障害が発生したり、何か問題が起きたときに、プログラミング言語の主流ではなくなっているCOBOLを扱える人が少なくなり、対応が出来なくなってしまいます。

こう言ったことが2025年問題と一緒に来ると言われているのが「2025年の崖」という問題です。

だからこそ古い基幹システムを刷新していかなければいけないということが今の課題です。

～いっしょに「新しい答え」をつくりませんか？～

国民民主党 埼玉県連HP ↓

国民民主党 党員・サポーター募集！

お申込み・詳細は、国民民主党 埼玉県連ホームページ、またはあさの克彦事務所まで



政治が率先してレガシーシステムの改正を

日本はIT技術において世界から2周も3周も遅れていると言われていました。

様々な場面での意思決定を早くするためには、必要な分析やデータ処理のスピードが求められます。

しかしデータ処理が遅いという課題が企業、そして何よりも行政の中に存在しています。

国会や地方議会では、ほとんどがまだ紙ベースです。必要な資料やデータも、タブレット一つで全部見られる時代なのに相変わらず分厚い資料が配られます。どうしてでしょうか。

分からない人を基準に作るからです。

もちろん世の中の誰もが使うようなものであれば、ある程度は分からない人に合わせる事は必要です。

しかし議会であるならば、一定の基準までスキルを上げてもらうべきです。

そうしなければどんどん立ち遅れていき、世界から取り残されてしまいます。

これから先、経済的にも安定し、そして国民生活を豊かにしていくためには、やはり政治は率先してそういった技術を取り入れていく必要があります。そのためにはその人材を育成することも必要です。学校においてIT教育が始まっていますが、一方でITリテラシーの低い先生方や、そもそもシステムということがわかっていない方々が教えているうちは、子供たちのITスキルは伸びていきません。

IT教育をするのでしたら専門家が動画で配信すれば良いと思います。

学校の先生方がそれぞれのIT技術を上げるよりも、効率的で為になる授業が出来る人がたくさんいます。本当に良い授業ができる人たちの動画で子供たちが学べば良いのです。

そういったことを可能にするIT技術を取り入れるためには、政治が率先してレガシーシステムの改正を早めていく必要があると思います。

そのためにはお金も必要になります。

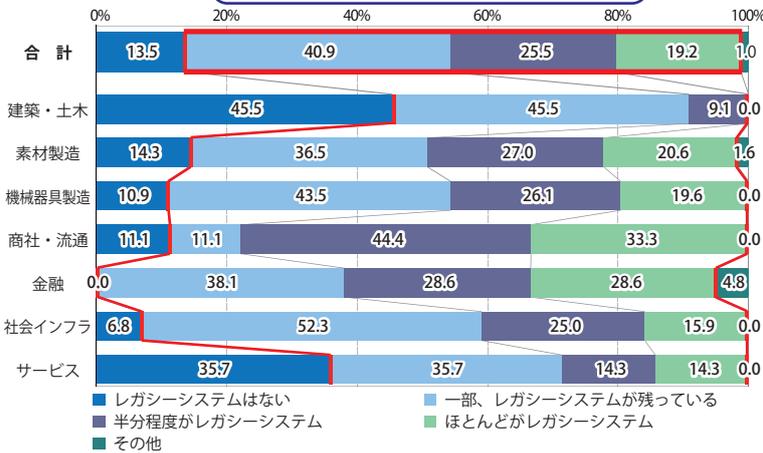
今のところまだ日本はMMTに基づいた積極財政が可能な位置にいます。

いずれインフレ率が2%~3%になれば出口戦略が必要になりますが、その時には経済が良くなっていなければいけません。

だとしたらそこまでにできることは、必要な分野に徹底してお金を出すことだと思います。

ただお金を出すだけではなくて、末端まで行き渡る、レガシーシステムの改正の様な必要どころに必要なお金を出していく積極財政が必要だと私は考えます。

業種別、レガシーシステムについての調査



出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会「デジタル化の進展に対する意識調査 2017」



国民民主党 代表
衆議院議員

玉木 雄一郎

私も応援しています！

私もあさの克彦さんを応援しています。ぜひ、皆さまの力をお貸しください！

プロフィール

昭和 49 年 北海道札幌市生まれ
平成 10 年 北海道大学工学部卒
12 年 大学院中退後、IT 企業入社
13 年 前埼玉県知事 上田きよし秘書、後に事務所長
21 年 東京都議会議員を2期務める
30 年 タクシードライバーから参議院議員公設第一秘書

中学・高校と柔道部に所属（初段）
好きなこと：運動、カラオケ、読書
好きな食物：白いご飯
ニックネーム：かつを
お酒：酒は弱い飲み会好き
家族：妻、長男、長女



連絡先

国民民主党 埼玉県第4区総支部

(朝霞市 / 志木市 / 和光市 / 新座市)

あさの克彦 事務所

〒351-0025

朝霞市三原 4-5-18 ベルコーポ I-102

TEL 048(483)5290 FAX 048(483)5291

E-mail info@asano-k.net